

PS-LTE以外の公共部門間の  
周波数やシステムの共用化について①  
(マイクロ回線、テレメーター、テレコントロールシステム関連)

平成30年5月30日

事務局

## 1. 検討課題

「公共安全LTE」以外の公共分野において、最新の技術による効率的な業務や電波利用を促す観点から、公共部門間における周波数やシステムの共用化について、具体的な方策を検討する。

「規制改革推進会議 第二次答申(閣議決定:平成29年11月)」

③帯域確保に向けた対応:公共部門における対応 イ 公共部門間の周波数やシステムの共用化 【平成30年夏までに検討・結論】

## 2. 現状

- 他の機関と無線設備を共用している主な無線システムとしては、マイクロ回線、テレメータ、テレコントロールがある。
- ダム等の立地条件に制限がある場合や防災情報を流域内に共有する場合に、複数の機関により無線設備が共用されている。また、施設の計画段階から関係者間で調整されているケースが多い。

無線システム	主な用途	共用している主な免許人
マイクロ回線	水位、雨量等のデータ伝送	国の機関と(独)水資源機構、 国の機関と地方公共団体
テレメータ	ダムの水位観測	国の機関と電力会社、 国の機関と地方公共団体
テレコントロール	ダムの放流警報	国の機関と地方公共団体

- 現在の公共部門の無線システムは、新設よりも更新が主となっている状況にある。

## 3. 取組の方向性

- 無線システムの共用化に向けて、ガス事業者等の公益事業主体やメーカー等が参画する場を設け、以下の点等を継続的に検討することが必要。
  - ✓ 複数の無線システムによる周波数や設備の共用化(共用例の共有等)
  - ✓ 新たな技術を活用したシステム(低消費電力、広域、低コストでデータ伝送を可能とするLPWA(Low Power Wide Area)等)の導入の可能性